

第43期中間事業報告書

平成15年4月1日～平成15年9月30日



株式会社島精機製作所

Ever Onward—



CONTENTS

- p.2 … 企業理念
- p.3-4 … 社長インタビュー
- p.5 … 決算ハイライト
- p.6 … 営業報告
- p.7-8 … トピックス
- p.9-11 … 財務データ
- p.12 … 中長期戦略
- p.13 … 株式の状況
株主優待のお知らせ
- p.14 … 会社概要

限りなき前進

全自動手袋編機の開発を原点とする当社は、創業当初から『世界初』の製品づくりという目標を掲げるとともに、『限りなき前進 Ever Onward』を経営理念とし、創意と工夫により最高機能の製品を経済的な価格でお届けすることを基本に、常に顧客の立場に立ち、ニーズを先取りした製品開発を行ってまいりました。

以来、株主の皆さまをはじめとした多くのステークホルダーの方々のご支援、ご愛顧により、手袋編機からコンピュータ横編機、デザインシステムにいたるトップメーカーとして、高い評価をいただくまでになりました。

さて、昨今、人々の生活に欠くことのできない「衣」の分野において、消費者ニーズがますます多様化しております。こうした中、当社ではこれまで培ってきたハードウェア、ソフトウェアの技術力に加え、ノウハウ、デザイン、データまでも含めた総合的なサービスと情報を提供することで、ユーザー業界の発展に貢献し、ひいては衣の文化の形成に寄与してまいります。

総合メカトロニクス企業として、新世紀においても創業の原点に立ちかえり、新たな『創造』にチャレンジし続ける当社に、より一層のご支援、ご指導を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

株主の皆さまへ

第43期中間期の成果と 今後のビジョンについて

Q・当中間期の業績について教えてください。

当中間期の業績は、連結ベースで売上高249億84百万円、利益面では営業利益62億32百万円、経常利益57億28百万円、中間純利益29億19百万円となり、単独ベースでは売上高が241億76百万円、営業利益54億55百万円、経常利益53億13百万円、中間純利益28億25百万円となり、中間期としましてはいずれも過去最高を記録することができました。

これは、売上面では、当社の主力製品であるコンピュータ横編機が、市場ニーズに対応した積極的な営業活動により、中東のトルコやアジア地域の中国、香港において引き続き旺盛な設備投資意欲を呼び起こし、好調な推移となりました。また、国内市場では、ユーザー業界の環境は依然として厳しいものの、付加価値の高いモノづくりに適したホールガーメント[®]の浸透が着実に進み、売上の大幅な伸びにつながりました。

利益面では、売上高の増加に加え、増産に伴う稼働率の向上やコスト削減が進み、営業利益は大きく伸びました。また、為替相場が円高ユーロ安に転じ為替差損が生じましたが、為替予約などのリスクヘッジに努めたことで経常利益、中間純利益についても大幅に増加いたしました。



代表取締役社長 島 正 博

Q・ファッション業界における島精機の役割についてお聞かせください。

近年、繊維産業は労働集約型産業として位置付けられ、日本をはじめとする先進国では、繊維製品の生産拠点は労働コストが低廉な国や地域へと世界的に移ってきました。

しかし、安易なコスト意識だけでモノづくりの場を労働コストの低廉な国に求めることは、流行の移り変わりが激しいファッション業界において、ビジネスチャンスの損失にもつながる致命的な結果を招くことにもなりかねません。

そこでオン・デマンドでのニット製品の供給を可能にするホールガーメント[®]と、デザインシステムを中核としたIT技術をリンクさせ、総合的なビジネスソリューションとして提供することにより、先進諸国でのニット生産を労働集約型から知識集約型産業へとシフトさせ、過剰在庫の削減や品切れロス・機会損失の抑制を実現し、ビジネスチャンスを確実に獲得できるようにすることで、ファッション業界の活性化ひいてはモノづくりの再生に貢献したいと考えています。

Q. 今後の方向性と通期の見通しについてお聞かせください。

海外市場においては、消費の多様化が顕著となるなかでニット製品においても高級品と低価格品の二極分化が一層鮮明となりつつあります。また、中東やアジア市場の位置付けが重要性を増しており、同時に消費地型生産に適した欧米市場も今後緩やかな回復傾向を示すものと考えております。

国内市場は、個人消費は底堅いものの、デフレ環境を背景とした、安価な外国製品の大量輸入や消費者ニーズの多様化への対応など、国内ニット・アパレル業界は生き残りを賭け、ホールガーメント[®]を基幹アイテムとしつつ、SPA(製造小売業)業態への転換が急務となっております。

このような事業環境のなか、10月にイタリア・ミラノで開催された、国際的な展示会であるI K M E展(国際ニット機械見本市)での成果を活かし、ホールガーメント[®]の全世界、特に欧州市場に向けての本格展開に力を注いでまいります。I K M E展では、ホールガーメント[®]のバリエーションをさらに拡大し、多彩な製品サンプルを展示するとともに、三次元編成が可能な新開発手袋編機など、モノづくりのトータルシステムを提案し、非常に高い評価を得ることができました。今後は、ホールガーメント[®]を核としたモノづくりにおける新しいビジネスモデルを提案することで、新しい魅力のあるファッションを創造し、業界の活性化と世界市場への浸透を強力に推進してまいります。

また海外売上比率の高まりに対応した、為替リスク管理体制にもとづくリスクヘッジを継続するとともに、グループ全般にわたる一層の合理化、効率化や生産性の向上による製造コストの低減を図ることで、業績の向上、安定的な利益の確保に全力を傾注いたします。

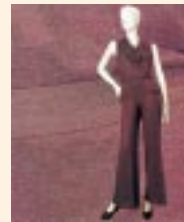
なお、通期の業績見通しにつきましては、売上高480億円、営業利益115億円、経常利益107億円、当期純利益58億円を計画しております。

Q. 株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

当社では、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付け、利益配分につきましては、業績を基本として、今後の収益予想や将来への事業展開などを勘案し、収益に対応した還元政策として積極的に実施していきたいと考えています。

なお、当中間期の配当金につきましては、1株につき17円50銭とさせていただきます。また、期末配当金につきましては、予想利益の達成を勘案して当初予定より2円50銭増額し1株当たり20円とし、中間配当額と合わせて年間では1株当たり37円50銭とさせていただきます。

今後も株主の皆さまのご期待にそえるよう、業績の向上と経営基盤の強化に全力で取り組んでまいりますので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

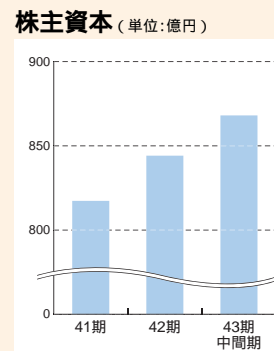
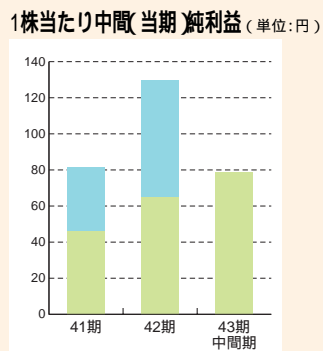
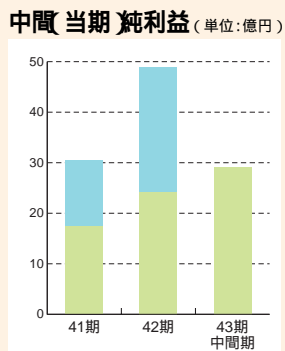
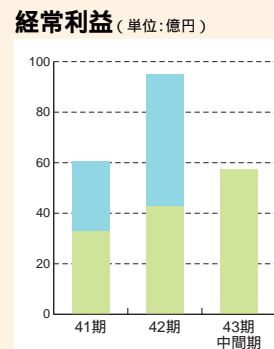
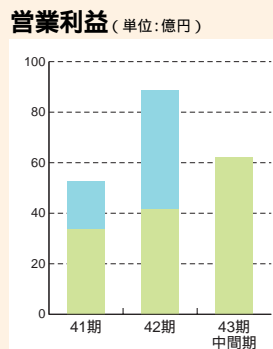
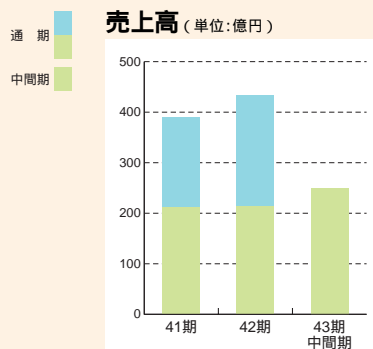


Financial Highlights

決算ハイライト

科 目	連 結			単 体		
	当中間期 (平成15年9月期)	前中間期 (平成14年9月期)	前 期 (平成15年3月期)	当中間期 (平成15年9月期)	前中間期 (平成14年9月期)	前 期 (平成15年3月期)
売 上 高 (百万円)	24,984	21,368	43,288	24,176	20,379	41,578
営 業 利 益 (百万円)	6,232	4,175	8,847	5,455	3,475	7,546
経 常 利 益 (百万円)	5,728	4,281	9,496	5,313	3,760	8,420
中間(当期)純利益 (百万円)	2,919	2,420	4,878	2,825	2,195	4,497
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	78.94	64.85	129.61	76.38	58.83	119.44
総 資 産 (百万円)	100,336	94,496	96,220	96,402	90,373	91,658
株 主 資 本 (百万円)	86,807	83,321	84,419	82,015	78,888	79,760

業績の推移 (連結)



営業活動のご報告（連結）

横編機部門

当社のコア・ビジネスである横編機事業では、ホールガーメント[®]の持つ消費者に対するメリットを活かし、今までにない新しい魅力のあるサンプルをはじめとする、独自のノウハウやデザイン、さらにはデータまでをトータルサポートすることで、市場への浸透を推進してまいりました。その結果、売れ筋商品としてのホールガーメント[®]の評価が定着し、大手アパレルを中心に主力ブランドへの拡大が進むとともに、縫製等の異業種への採用など新たな展開の兆しも見られるようになりました。

海外市場におきましては、欧州・北米市場は輸入品の増加や生産拠点の移転などによる減速はありましたが、欧州・ロシアなどへのニット製品の輸出に加え内需が活発なトルコでは、高度な技術力を基盤とした設備投資意欲が旺盛で、従来機種の新シリーズを中心に前期に引き続き大幅に売上を増加させました。さらに横編機の海外売上高全体の50%を占めるアジア市

場でも、香港が対欧米への生産拠点として設備投資が進み、中国もSARSによる停滞は軽微で欧米向けに加え内需が伸びるなど、高水準の売上を維持した結果、海外売上高は前年同期に比べ増加しました。

国内市場では、トータルデザインセンターの組織再編により、ノウハウを迅速に提供する企画提案型の営業活動を推進し、業界の活性化を図ることにより、ホールガーメント[®]が大きく伸長したことで、国内売上高は前年同期に比べ大幅に増加しました。

横編機事業全体としては、過去最高の販売台数を記録した前期をさらに上回り、売上高は202億17百万円（前年同期比17.8%増）となりました。



SWG - FIRST
無縫製型コンピュータ横編機

デザインシステム部門

デザインシステム関連事業では、ニット・アパレル業界のコミュニケーションツールとして、ALL in ONEの開発コンセプトを持つ「SDS - ONE」の販売に注力し、デザイン企画から商品提案、生産面における高速化、省力化を実現する高機能と操作性が高く評価されましたが、海外市場で前年同期に比べ減少した結果、売上高は9億56百万円（前年同期比10.1%減）となりました。



SDS - ONE
デザインシステム

手袋靴下編機部門

手袋靴下編機事業では、中国、韓国などのアジア地域を中心とした海外市場の需要が回復し、国内市場でも手袋の用途開発を進めたことで売上が増加し、売上高は24億37百万円（前年同期比46.8%増）となりました。



NewSFG
シームレス手袋編機

トピックス

新しいニット市場の創造

～ホールガーメント[®]の普及へ向けて～

産業構造や経済情勢の変動に伴い、国内・海外における業界地図は変化の兆しを見せています。こうした経営環境の中、業績の維持・向上を視野に、さまざまな施策を展開しています。それら施策の最大の中心軸として、ホールガーメント[®]（無縫製ニットウェア）横編機の積極的な市場展開を目標に掲げ、全社一丸となって取り組んでいます。

さて、ホールガーメント横編機は、新しいコンセプトと大きな可能性を秘めた無縫製ニットウェアを生産できる横編機として1995年に産声を上げました。このホールガーメント横編機の開発から2年後の1997年には、それまで150年続いてきた針の概念を変えるスライドニードルという編み針も新たに開発し、課題となっていた無縫製ニットウェアの多彩なデザインバリエーション化を実現しました。

当社ではホールガーメント横編機の市場展開を通じて、無縫製というホールガーメントの最大のメリットをセールスポイントに、一部で沈滞していた先進国



のニット産業を労働集約型から知識集約型へと構造転換させ、ニット業界の活性化を図ろうとしていました。しかしながら、開発当初の数年間には国内だけでなく海外からも大きな期待が寄せられていたにもかかわらず、ホールガーメント横編機の市場展開は低調な状況で推移するに留まっていました。

こうした低迷状況からの脱却を次の課題とし、市場分析をした結果、「ホールガーメント横編機が持つ革新的な付加価値がユーザー業界に理解されていない」という厳しい現実が判明しました。

そこで、導入による省力化やリードタイムの短縮などハードウェア面の高い機能性以上に、ホールガーメント横編機によって創り出される新しい魅力をもったニットウェアとしての高付加価値性、つまり最終消費者にとってのメリットを全面的にアピールすることで、機械そのものの優位性を強く打ち出すという手法に切り替えることにしました。

まず、ニットウェアとしてのホールガーメントの優位性をユーザー業界へアピールするために、最新のニット技術と斬新なデザイン性を兼ね備えたホールガーメントサンプルの作成に努めました。一週間に



60点以上ものサンプルをコンスタントに作成し、ホールガーメントのノウハウをデータベース化することで、顧客のニーズに応じたプレゼンテーションおよびデータ提供が可能となりました。

次に、こうして蓄積されたホールガーメントのノウハウを効果的かつドラスチックにユーザー業界へアピールする手段のひとつとして選択したのが「ファッションショー」です。

昨春の創立40周年記念イベントとしてのファッションショーに引き続き、本年4月には自社企画のオリジナルサンプルをファッションショーで披露したことで、国内外の多くのユーザーに対しホールガーメントだけが持つ優位性を強力にアピールすることができました。

しかも、1ヶ月という短期間で多数のオリジナルサンプルを自社で企画・作成したことにより、ホールガーメントに関する編成ノウハウをさらに高めただけでなく、ホールガーメントが先進国におけるモノづくりの可能性を広げる手段としての認識を高めることができたのです。



さて、ホールガーメントの市場展開において中核的な位置にあるのがトータルデザインセンター(TDC)という部門の存在です。

TDCは社内の開発部門と営業部門を結びとともに、当社とユーザー業界の橋渡しという重要な役割を担っています。自社の製品である横編機やデザインシステムなどを使い、ニットサンプルの企画・デザイン・生産・販売促進という、モノづくりの一連の流れを実際に手掛けることで、モノづくりに関するノウハウを蓄積するとともに、社内へのフィードバックを行う最も特徴的な部署であると言えます。先述のファッションショーにおける多数のオリジナルサンプルも、このTDCが中心となって企画・編成したものです。そして、こうした当社独自の方針に基づく活動が実を結び、ホールガーメントの市場への浸透につながってきたのです。

これからも当社は『最高機能の製品を経済的な価格で提供する』という創業来の理念に基づいて、単なる生産財としてのハードウェアを提供するだけのメーカーにならず、ファッション産業全体を活性化させるためのモノづくりの新しいノウハウや自社で蓄積された先進のニット技術やデザイン、各種データを適確にユーザーニーズを見据えた上で顧客に提供することにより、ホールガーメントをさらに普及・浸透させ、社業の発展に全社一丸となって取り組んでまいります。

ホールガーメントは株式会社島精機製作所の登録商標です。

Financial Data

財務データ（連結）

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当中間期 平成15年9月30日現在	前中間期 平成14年9月30日現在	前 期 平成15年3月31日現在
流動資産	68,168	61,528	63,939
現金及び預金	8,245	9,964	10,173
受取手形及び売掛金	49,491	39,885	42,705
たな卸資産	9,713	10,286	10,411
その他	2,301	1,839	1,823
貸倒引当金	1,584	447	1,174
固定資産	32,167	32,967	32,280
有形固定資産	18,542	18,674	18,767
建物及び構築物	6,194	6,465	6,414
土地	10,318	10,264	10,264
その他	2,028	1,944	2,088
無形固定資産	139	127	132
投資その他の資産	13,486	14,166	13,380
その他	14,380	15,204	14,440
貸倒引当金	894	1,038	1,060
資産合計	100,336	94,496	96,220
流動負債	10,964	9,476	10,080
支払手形及び買掛金	4,699	4,573	4,521
賞与引当金	1,036	973	671
その他	5,228	3,930	4,886
固定負債	2,383	1,497	1,542
退職給付引当金	1,544	1,497	1,542
役員退職慰勞引当金	835		
その他	3		
負債合計	13,348	10,973	11,622
少数株主持分	180	201	178
資本金	14,859	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724	21,724
利益剰余金	58,359	54,342	56,241
土地再評価差額金	6,664	6,528	6,675
その他有価証券評価差額金	61	284	164
為替換算調整勘定	43	155	85
自己株式	1,488	636	1,481
資本合計	86,807	83,321	84,419
負債、少数株主持分及び資本合計	100,336	94,496	96,220

連結損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当中間期 平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	前中間期 平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	前 期 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
売上高	24,984	21,368	43,288
売上原価	12,951	11,713	23,200
売上総利益	12,032	9,654	20,088
販売費及び一般管理費	5,799	5,479	11,241
営業利益	6,232	4,175	8,847
営業外収益	171	223	741
受取利息	92	118	206
その他	79	105	534
営業外費用	675	117	91
支払利息	0	35	37
為替差損	613	31	
その他	62	51	54
経常利益	5,728	4,281	9,496
特別利益	49		
特別損失	825	40	695
税金等調整前中間(当期)純利益	4,952	4,240	8,800
法人税、住民税及び事業税	2,947	2,043	3,655
法人税等調整額	917	224	289
少数株主利益	2	1	22
中間(当期)純利益	2,919	2,420	4,878

連結剰余金計算書

（単位：百万円）

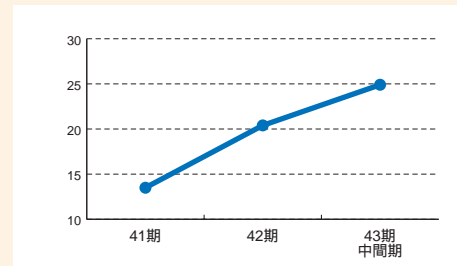
科 目	当中間期 平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	前中間期 平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	前 期 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	21,724	21,724	21,724
資本剰余金中間期末(期末)残高	21,724	21,724	21,724
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	56,241	52,513	52,513
利益剰余金増加高	2,919	2,420	4,878
中間(当期)純利益	2,919	2,420	4,878
利益剰余金減少高	802	590	1,150
配当金	739	559	1,119
役員賞与	52	31	31
土地再評価差額金取崩額	10		
利益剰余金中間期末(期末)残高	58,359	54,342	56,241

連結キャッシュ・フロー計算書

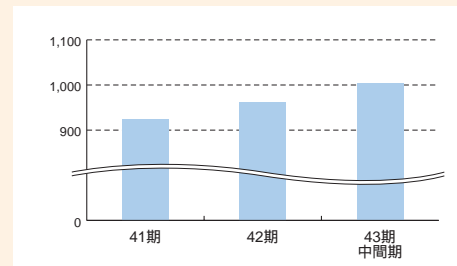
(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前中間(当期)純利益	4,952	4,240	8,800
減 価 償 却 費	491	494	1,031
受取利息及び受取配当金	123	128	240
売上債権の増加額	6,811	1,927	4,077
たな卸資産の減少額(増加額)	806	98	191
仕入債務の増加額	237	323	204
そ の 他	1,147	192	744
小 計	699	3,096	6,271
利息及び配当金の受取額	123	133	244
利 息 の 支 払 額	1	35	37
法人税等の支払額	2,472	1,561	2,800
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,650	1,632	3,677
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の減少額(純額)	5	308	309
有価証券の減少額(増加額)(純額)	0	39	39
有形固定資産の取得による支出	618	347	767
有形固定資産の売却による収入	71	0	6
投資有価証券の取得による支出	200	1,270	1,570
投資有価証券の売却による収入	450	22	22
そ の 他	243	102	119
投資活動によるキャッシュ・フロー	47	1,427	1,919
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の増加額(減少額)(純額)	500	10	10
自己株式の取得による支出	7	4	848
配当金の支払額	740	559	1,118
そ の 他	3	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	243	574	1,977
現金及び現金同等物に係る換算差額	19	118	59
現金及び現金同等物の減少額	1,921	488	279
現金及び現金同等物の期首残高	9,966	10,246	10,246
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	8,044	9,758	9,966

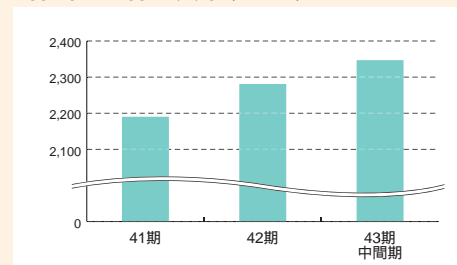
売上高営業利益率(単位:%)



総資産(単位:億円)



1株当たり株主資本(単位:円)



財務データ（単体）

貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当中間期 <small>平成15年9月30日現在</small>	前中間期 <small>平成14年9月30日現在</small>	前 期 <small>平成15年3月31日現在</small>
流動資産	63,902	56,878	58,868
現金及び預金	5,297	6,624	6,311
受取手形及び売掛金	49,218	39,907	42,668
たな卸資産	8,906	9,320	9,478
その他	1,959	1,405	1,479
貸倒引当金	1,479	378	1,070
固定資産	32,499	33,494	32,790
有形固定資産	16,965	17,311	17,268
建物及び構築物	5,687	5,941	5,899
土地	9,982	10,025	10,025
その他	1,294	1,344	1,343
無形固定資産	125	117	122
投資その他の資産	15,409	16,066	15,399
その他	16,303	17,100	16,459
貸倒引当金	894	1,033	1,059
資産合計	96,402	90,373	91,658
流動負債	12,206	10,179	10,550
支払手形及び買掛金	6,210	5,829	5,718
賞与引当金	885	829	571
その他	5,111	3,520	4,260
固定負債	2,179	1,305	1,347
退職給付引当金	1,343	1,305	1,347
役員退職慰労引当金	835		
負債合計	14,386	11,484	11,897
資本金	14,859	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724	21,724
資本準備金	21,724	21,724	21,724
利益剰余金	53,522	49,755	51,497
利益準備金	2,124	2,124	2,124
任意積立金	46,352	43,358	43,358
中間(当期)未処分利益	5,045	4,272	6,014
土地再評価差額金	6,664	6,528	6,675
その他有価証券評価差額金	62	284	164
自己株式	1,488	636	1,481
資本合計	82,015	78,888	79,760
負債及び資本合計	96,402	90,373	91,658

損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当中間期 <small>平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで</small>	前中間期 <small>平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで</small>	前 期 <small>平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで</small>
売上高	24,176	20,379	41,578
売上原価	13,404	11,951	23,856
売上総利益	10,771	8,427	17,722
販売費及び一般管理費	5,315	4,952	10,176
営業利益	5,455	3,475	7,546
営業外収益	533	469	1,022
受取利息	65	93	156
その他	467	375	866
営業外費用	675	184	148
支払利息	0	35	36
為替差損	608	73	
その他	65	76	111
経常利益	5,313	3,760	8,420
特別利益	49		
特別損失	800	40	682
税引前中間(当期)純利益	4,562	3,719	7,737
法人税、住民税及び事業税	2,686	1,746	3,112
法人税等調整額	948	221	128
中間(当期)純利益	2,825	2,195	4,497
前期繰越利益	2,230	2,076	2,076
土地再評価差額金取崩額	10		
中間配当額			559
中間(当期)未処分利益	5,045	4,272	6,014

中長期的な戦略

～ 持続的な成長を目指して～

ファッション業界におけるグローバルな状況は、先進国における付加価値の高いモノ作りへのシフトと、途上国における生産量の拡大という局面を迎えています。このような経営環境の中、安定的・持続的な成長のため、次のような中長期的戦略を策定しています。

1. コンピュータ横編機業界でのシェアアップ

業界トップのシェアを有する当業界で更にシェアアップを図るため、全世界の市場ニーズに対応した商品開発、販売体制の強化に取り組みます。

そのために、ハードウェアの機能や品質向上だけでなく、ソフトウェア等の充実を図るとともに独自のノウハウを活用したユーザーサポート体制を強化し、ホールガメント[®]をはじめとする魅力的なニット生産のあり方を提案することで、競合他社との差別化を進め、新たな市場開拓に取り組んでいきます。



2. ニット・アパレル関連業界へのデザインシステムの積極的な提案

デザインシステムでは、長年培ってきたハードウェア、ソフトウェアの技術をもとに開発を進め、ユーザー業界の収益に貢献するビジュアルコミュニケーションツールとして、幅広く提案してまいります。

特にデザインシステム「SDS-ONE」を国内外のニット・アパレル業界におけるビジネスソリューションやデザインツールとして、積極的な展開を図り、販売増強に努めます。

3. 手袋靴下編機のマーケット拡大

当社の手袋編機は、世界市場において80%以上の圧倒的なシェアを有しており、市場もアジア地域における需要の拡大等のプラス要因により順調に推移しています。

今後は、機能の充実、強化を図るとともに、一般作業/防寒用といった従来の手袋の分野だけでなく、精密作業用や医療用への対応など手袋の高機能化、五本指靴下といった新たな付加価値を備えた手袋・靴下を生産するためのノウハウをユーザー業界に提案することで、販売の強化を図ります。



4. 高収益体質の構築

利益率向上のため抜本的見直しを行い、部品の共通化等による材料費・加工費の削減、およびグループ会社全体にわたる生産効率の改善による製造コストの低減を進めています。また、製造部門だけでなく、開発・販売・管理等の社内各部門の業務を見直し、コスト競争力を高めることで、高収益体質の構築に取り組んでおります。



5. リスク管理

為替リスクについては、円建取引比率の向上を図るとともに、売上債権の流動化や為替予約等によるリスクヘッジを積極的に進め、為替変動の影響を軽減するように努めております。

また、与信リスクについては、販売のリスク分散や大口代理店等だけでなく最終ユーザーの信用状態の把握に努めるなど、適切な債権管理を目指します。

株式の状況(平成15年9月30日現在)

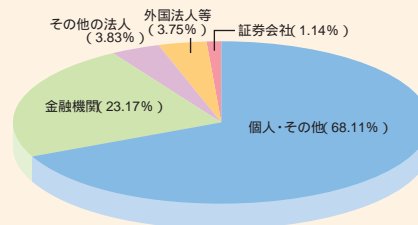
大株主

株主名	持株数	議決権比率
島 正 博	5,200千株	14.08%
後 藤 明 史	2,640	7.15
島 三 博	1,980	5.36
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,833	4.96
和島興産株式会社	1,130	3.06
株式会社UFJ銀行	1,080	2.92
シマセイキ社員持株会	1,020	2.76
島 節 子	995	2.69
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	936	2.53
株式会社紀陽銀行	838	2.27

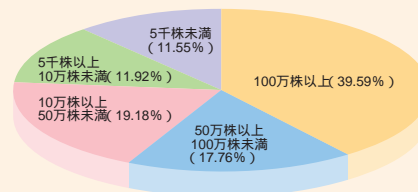
株式の状況

会社が発行する株式の総数 ...142,000,000株
 発行済株式の総数37,600,000株
 当中間期末株主数12,664名

所有者別分布



所有数別分布



株主優待のお知らせ

当社では毎年3月末日と9月末日を基準日として、単元株主様に株主優待を実施しております。

今9月期の株主優待につきましては、当社グループ企業が経営する南紀白浜「ホテル マーキーズ」、「オーベルジュ サウステラス」の宿泊優待割引券(正規料金の30%引)を進呈いたします。

発行基準		
	ホテルオーベルジュ マーキーズ	サウステラス
100株以上	2枚	1枚
1,000株以上	4枚	1枚
3,000株以上	6枚	1枚



和洋創作会席料理「立冬」
(ホテルマーキーズ)

3月期の株主優待につきましては、当社オリジナル企画品をお届けいたしております。

【これまでの株主優待品(3月期)】



イタリアワイン
(平成15年3月期)



ホールガーメントニット
(平成14年3月期)



レース製品
(平成13年3月期)



ワイン
(平成12年3月期)

会社概要(平成15年9月30日現在)

会社概要

商号	株式会社 島精機製作所
英訳名	SHIMA SEIKI MFG., LTD.
本社	和歌山市坂田85番地
創立	昭和37年2月4日
資本金	148億5,980万円
従業員	1,025名
事業内容	コンピュータ横編機 シームレス手袋編機、靴下編機 コンピュータデザインシステム ニットCADシステム アパレルCAD / CAMシステム

役員

役名	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	島 正博	
常務取締役	田中 雅夫	経理部長
常務取締役	村元 勝	輸出部長
取締役	岩倉 煌一	企画部長
取締役	京谷 実	生産技術部長兼システム生産技術部長
取締役	有本 博行	資材部長
取締役	森田 敏明	メカトロ開発部長
取締役	和田 隆	製造技術部長
取締役	後藤 明史	営業部長兼トータルデザインセンター部長
取締役	島 三博	システム開発部長
取締役	片桐 正二郎	総務部長
常勤監査役	大川 修	
常勤監査役	沖殿 俊幸	
監査役	的場 悠紀	弁護士

(注) 監査役 的場悠紀は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

事業所

本社	和歌山市坂田85番地
支店	東京支店(東京都中央区) 大阪支店(大阪市北区) 名古屋支店(名古屋市中区) 泉州支店(大阪府泉大津市)

営業所	山形営業所(山形県山形市) 福島営業所(福島県伊達郡保原町) 新潟営業所(新潟県五泉市) 甲府営業所(山梨県中巨摩郡昭和町) 四国営業所(香川県東かがわ市)
海外支店	台北支店

株主メモ

決算期	毎年3月31日
配当金受取株主確定日	利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	毎年3月31日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告して定めます。
公告掲載新聞	日本経済新聞

当社は、貸借対照表および損益計算書を、日本経済新聞に掲載しておりました決算公告に代えて、ホームページに掲載しております。

当社のホームページアドレスは次のとおりです。

<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>

株式事務取扱場所

名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
UFJ信託銀行株式会社
大阪支店証券代行部
電話(06)6229-3011(代表)

同 取 次 所 UFJ信託銀行株式会社全国本支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行株式会社の
電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(フリーダイヤル) 0120-24-4479(本店証券代行部)
0120-68-4479(大阪支店証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

SHIMA SEIKI

株式会社島精機製作所
和歌山市坂田85番地

URL <http://www.shimaseiki.co.jp/>